

第 20 回 全国農林水産物直売サミット 講師のご紹介

(株)ファーマーズ・フォレスト 代表取締役社長 (中小企業診断士)

まつもと ゆずる
松本 謙

民間企業勤務を経て、平成 19 年に(株)ファーマーズ・フォレストを創業(現在の社員数は約 300 名)。平成 20 年より「ろまんちっく村」の総合運営を開始。同年にビール製造免許を取得し、クラフトビールも醸造。平成 22 年に卸事業部を立上げ、自社集荷配送網を整備する。量販店のインショップなどに地場産物の流通を開始する。平成 24 年に東京事務所を開設。同年に第二種旅行業を取得し、「えにしトラベル」を開業。着地型観光事業にも進出する。また、東京スカイツリー内に栃木県アンテナショップ「とちまるショップ」をオープン。地域発信型の商品やサービスには出口戦略が重要と考え、地域をまるごと売り込む「地域商社」としての機能を強化する。地域ブランドの創造と発信、および産地間流通などを通じ、ローカル経済圏ネットワーク形成の取組みにも挑戦する。近年は、福島や沖縄などの道の駅の指定管理業にも進出。また、認定農業者法人として自社農場も経営。クラインガルテンや市民農園など 270 区画の農場を運営する。体験農業・食農教育などの交流事業を通じて新しい農との関わり方も提案している。農と食、地域資源の総合プロデューサーとして「ものづくり」「ひとづくり」「まちづくり」を通じ、地域社会への貢献を進めている。

(株)もてぎプラザ 代表取締役/道の駅もてぎ 駅長 (茂木町長)

こぐち たつや
古口 達也

茨城県境の中山間地域にある人口約 1 万 1 千人の茂木町。里山や棚田の自然や景観、モータースポーツの開催などで交流人口は年間約 215 万人にのぼる。買い物や飲食の交流拠点が平成 8 年に開業した道の駅もてぎ。新鮮野菜のほか、ゆず関連商品や米粉のパウムクーヘンが人気。地元で作られたゆず、ブルーベリー、米、卵、野菜などを道の駅が買い取り、商品化を進めている。商品開発は地元の原材料ありきで、長く販売できるものを目指している。直売所で販売する野菜の 8 割は町内産(出荷者は約 180 名)。町の施設である有機物リサイクルセンター「美土里館」で作られるたい肥を使った野菜が多いのが特色。「ゆずいなり」など人気の弁当・惣菜も施設内で製造する。道の駅全体の年間売上は約 9.5 億円(令和 4 年度。うち直売所は 3.2 億)。(株)もてぎプラザのスタッフは現在約 100 名。道の駅が雇用の創出にも貢献している。古口町長は平成 14 年に町長に初当選し、現在 6 期目。栃木県町村会長。全国町村会副会長も務める。家庭菜園が趣味で、町長の日記を日々ホームページで公開している。

(株)道の駅しもつけ 取締役 駅長・支配人

ごとう いさお
後藤 勲

平成 23 年に開業した道の駅。農産物直売のほか地元人気店がテナント出店し、商品が豊富。直売所の出荷者は約 170 名。出荷者協議会・品質向上委員会への加入を条件とする。品質向上委員会では毎週売り場の巡回を行い、品質の向上に努める。道の駅から出荷者協議会に対して年間 20 万円の協賛金を支出し、会員のイベント運営や視察研修に充てられる。人気の農産物はいちご、なし、トマト、アスパラ、トウモロコシなど多品目の野菜や果物。自社で作る弁当・惣菜・スイーツ、出荷者が納める赤飯、だんご、まんじゅう、おこわも人気商品。特産品のかんぴょう関連商品も豊富。道の駅全体の年間売上は約 19 億円(税抜)。関連施設の運営も含め、約 60 名を雇用。平成 26 年より市民向け宅配サービスを開始。季節ごとに商品カタログを作り市内全戸に配布。利用する客単価は 4 千円を超える。後藤支配人は東武百貨店の食品売り場経験を活かし、道の駅の開業時から現職。女性に優しい店づくりを進めている。

(株)たくみの里 代表取締役 (群馬県みなかみ町)

にし さか ふみ ひで
西坂 文秀

たくみの里は日・新治村の交流施設として昭和 60 年に開業。平成 17 年に道の駅登録し、(一財)みなかみ農村公園公社が管理・運営にあたる。経営の悪化にともない、令和 2 年に自ら(株)たくみの里を立ち上げ、道の駅たくみの里、果樹観光農園「モギトーレ」、温泉施設の経営改善に奔走中。現在は 3 施設で約 50 名を雇用する。約 330ha に広がる「たくみの里」(物販・体験・加工・飲食施設)には、木工・和紙など様々な体験工房が点在し、年間 50 万人が来訪。直売所への出荷者は約 200 名。年間売上は約 9 千万(令和 4 年度)。西坂代表は、愛媛県今治市の直売所「さいさいきて屋」(JA おちいまばり)を成功させた経験から、平成 29 年よりみなかみ町に赴任。たくみの里で生産者の収入と集客につながる「わらアート」を仕掛け、多様なフルーツのスイーツを開発し、オンラインショップを強化するなど、新たな挑戦を続ける。現在は、里山テロワール構想として、耕作放棄地でブドウ栽培を開始し、ワイン作りもスタート。